

音源の比較試聴(42)

—シェラザード—

1. 始めに

前報(41)に引き続き、各種音源の再生経路に関する仮想アースとアースアキュライザーや OPT ISO BOX や LAN iPurifier Pro などを含む種々の対策の効果の確認のため、各種音源の比較試聴を実施します。

2. 音源の比較試聴の試聴方法と音源

アナログ関係の対策の経過は前報(27)でも延べたとおりで、配信や CD 再生の光アイソレーションなどの対策は fidata HFAS1-S10 の活用シリーズや OPT ISO BOX の導入シリーズや LAN iPurifier Pro で報告してきました。

今回、同じ曲のアナログ盤と CD と STAGE+からの配信を比較試聴します。

アナログ盤は下記を使用します。

PHILIPS 25PC-74

セルゲイ・リムスキー・コルサコフ 交響曲組曲シェエラザード
キリル・コンドラシン指揮アムステルダムコンセルトヘボウ

CD は下記を使用します。

DECCA UCCD-4418

セルゲイ・リムスキー・コルサコフ 交響曲組曲シェエラザード
キリル・コンドラシン指揮アムステルダムコンセルトヘボウ

Victor VICC-75007

セルゲイ・リムスキー・コルサコフ 交響曲組曲シェエラザード
ウラディミール・フェドセーエフ指揮モスクワラヂオ交響楽団

配信は STAGE+とベルリンフィルデジタルコンサートホールから上記と同一の曲を選択します。

セルゲイ・リムスキー・コルサコフ 交響曲組曲シェエラザード
ジャンンドレア・ノセダ指揮サンタ・チェチーリア国立アカデミー管弦楽団
セルゲイ・リムスキー・コルサコフ 交響曲組曲シェエラザード
トゥガン・ソフィエフ指揮ベルリンフィル

それぞれの音源は、下記の経路で聴いていきます。

アナログ盤

LINN LP-12→ZANDEN Model 12→Brooklyn DAC+→TruPhase(A)

CD

EMT981→TruPhase(B)→TruPhase(A)

STAGE+

ルーター→スイッチングハブ→PC→Brooklyn DAC+→TruPhase(A)

3. 音源の比較試聴結果

アナログ盤は、レーベルに対応したイコライザー特性で聴いていきます。

アナログのコンドラシン指揮アムステルダムコンサートヘボウ盤は、この曲の定番です。ヴァイオリンのソロやハープや木管などの質感は十分で、オーケストラの優雅な協和が聴き取れます。

CDのコンドラシン指揮アムステルダムコンサートヘボウの演奏は、上記アナログ盤とマスターが同じのようで、上記アナログ盤の表情を受け継いでいますが、弦などは若干硬質感が出てきます。

CDのフェドセーエフ指揮モスクワラヂオ交響楽団の演奏は、くっきりはっきりタイプの押し出しの良い演奏です。

STAGE+の配信のノセダ指揮サンタ・チェチーリア国立アカデミー管弦楽団の演奏は、STAGE+を楽しむ(345)で報告したとおり、コンサートマスターの艶やかなソロヴァイオリン、ハープの豊かな響き、木管の柔らかな音色などを散りばめ、サンタ・チェチーリア国立アカデミー管弦楽団のシルキータッチの演奏です。

ベルリンフィルデジタルコンサートホールの配信のソフィエフ指揮ベルリンフィルの演奏は、コンサートマスターの透明度の高いソロヴァイオリン、ハープや木管の響きの豊かさ、緻密なオーケストレーションが味わえます。

4. まとめ

アナログ再生と STAGE+からの配信を比較してみましたが、これまでの対策で、すべてにおいてレベルが向上しており、以前のような格差がなくなっており、収録年代や収録環境の違いがよく分かり、アナログ、CD、配信それぞれの魅力が現れていました。

以上